

膳・錢・五德・庖丁・陶磁器（越前・唐津・伊万里・瀬戸・志野）などは、橋に近い川底と橋の下に厚く堆積していた捨石と流入土砂の中から発見された。

8 木簡の积文・内容

木簡は二点出土したが、一点は墨痕がほとんど残っておらず、読み取りは困難である。

(1)

□

問屋九平殿

木の本村

ハセ

問屋喜右□

小山吉平

フシミ

〔采カ〕屋長右衛門殿

荷主

舍

オオツ

堅田屋半平殿

カイ

八木吉左衛門殿

武百五十七
疋田中川安平殿

△

向日市文化資料館発行
『よみがえる古代の文字』

・「

ツルガ

山下権右衛門殿

三国宮腰屋多吉殿

フク

輪違〔造カ〕

戌三月十一日出

道海安全
木之本村 小山吉平□

163×72×16 011

(2)

尖

□□□□□屋

□□

□□□□□屋

□□

225×70×7 011

(1)は、大和国から福井まで運ばれた物品に付けられたものである。大津の堅田屋、海津の八木吉左衛門、疋田の中川安平、三国の宮腰屋多吉は文献史料からその存在がわかる宿の問屋で、この付札が、湖西を通って敦賀へ運ばれ、敦賀からは舟で三国へ行き、最終目的地の福井で廃棄されたことがわかる。

9 関係文献

福井県立博物館『遺跡は語る ここ20年の発掘成果から』(一九八五年)
(清田善樹)